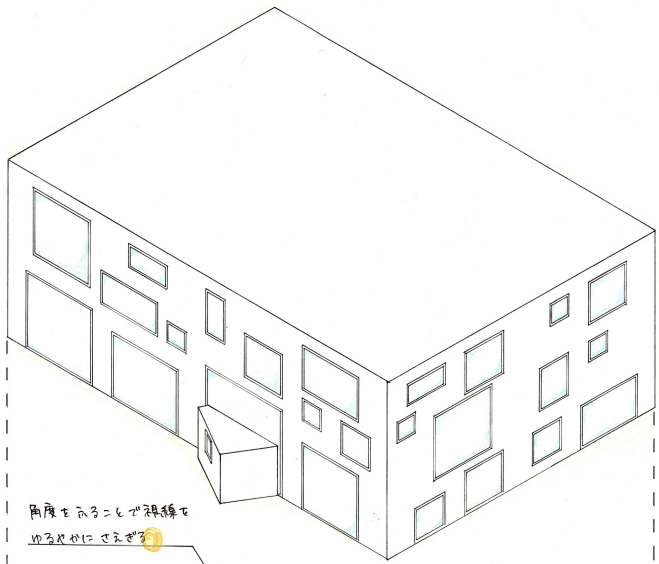
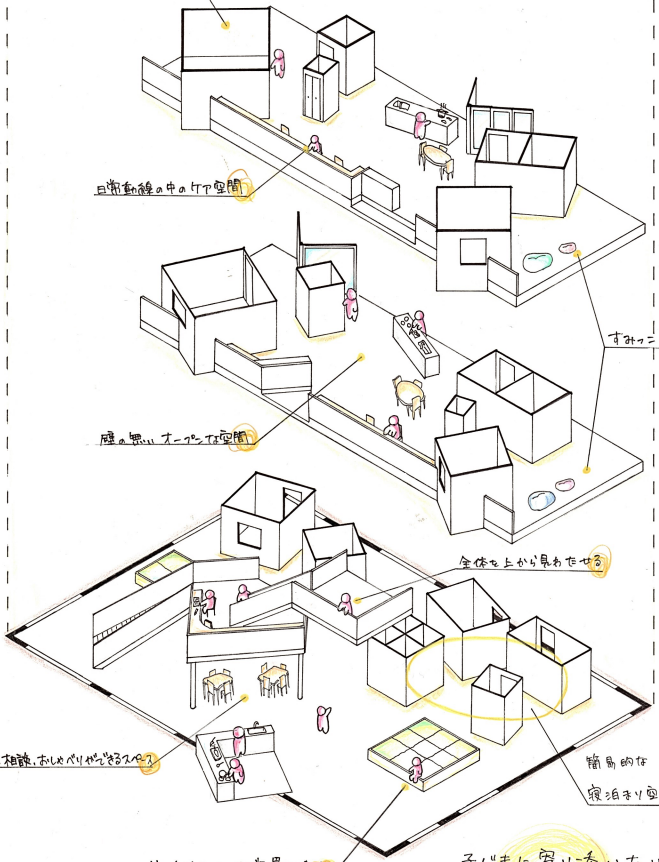


# 入れ子で出る子



角座をとりこめて視線をゆるやかにさせる



日常動線の中の4F空間

子供に寄り添いたい

壁の無い1-2F空間

全体を上から見おこせる

学食、相談、おしゃべりスペース

簡易的な寝泊まり空間

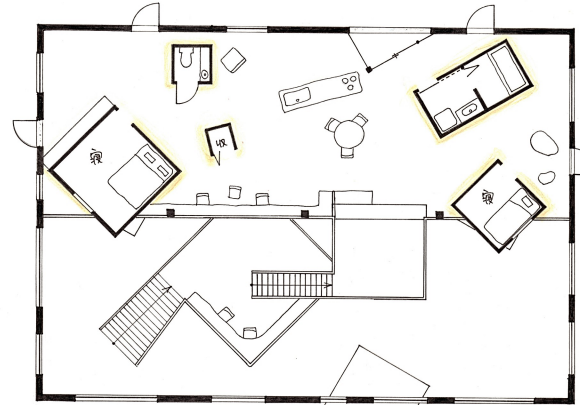
ゆとりとくつろげる畳スペース

子どもに寄り添いたい  
という気持ちで  
10人を結ぶ

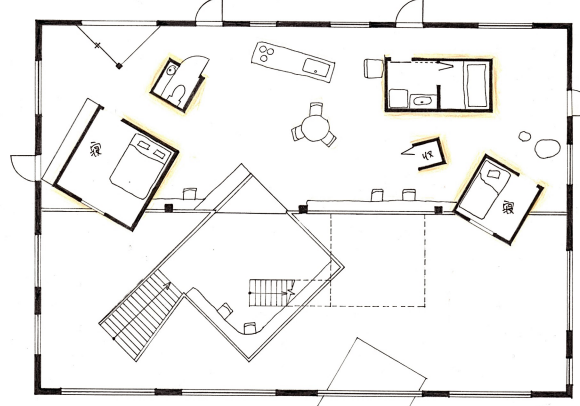
学校に行きたくない子供のために、  
一人一人の子のための家。  
本計画では種だけなくさまざまな役割を  
持つ人間ばかり子供を見守ることか  
できるような建物を、建物自体は大きな箱で構成  
されておいて、内部は小さな箱が散りばめ  
られており、いわゆる入れ子状態になっている。  
この大空間には壁物無く、  
縦向きに並ぶ小さな空間  
を仕切り分ける。それ  
により生まれるのは、  
距離感が子供を優しく  
見守る距離感である。  
また子供が自分の居場所を探るような多様  
な空間の場を設けた。それは距離感があり、親  
密になり、おしゃべりしたり、緩やかな活動が  
できる。小さな箱は徐々に外へ飛び出し、生活  
が溢れ出す。生活空間がゆるやかに、一歩  
外へ踏み出すきっかけとなる日常動線の中に  
4F空間があることで出る子がある。

家族構成

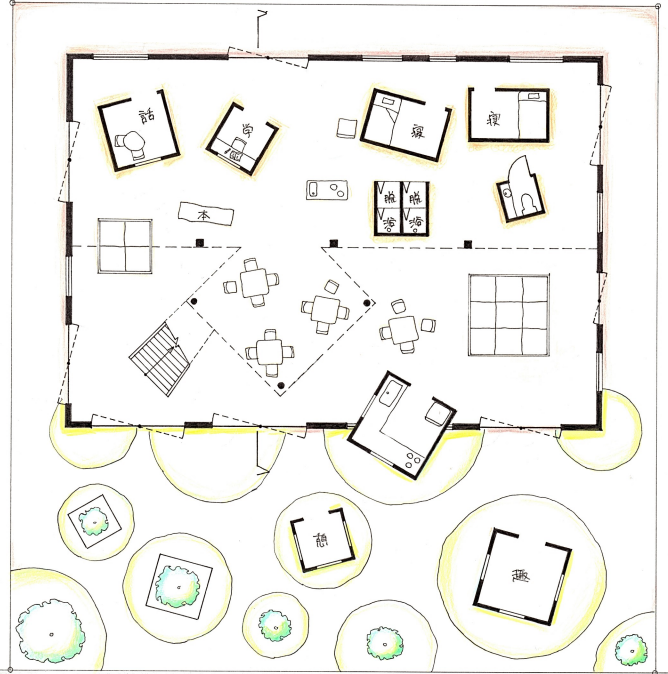
・父	子	(12才)
・母	子	(14才)
・父	子	センターカー
・母	子	センターカー
・父	子	センターカー
・母	子	センターカー
・父	子	センターカー
・母	子	センターカー
・父	子	センターカー
・母	子	センターカー



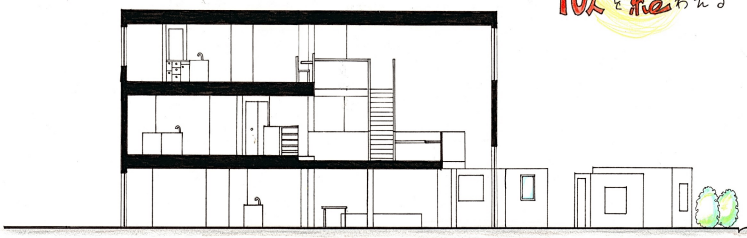
3階平面図 1/100



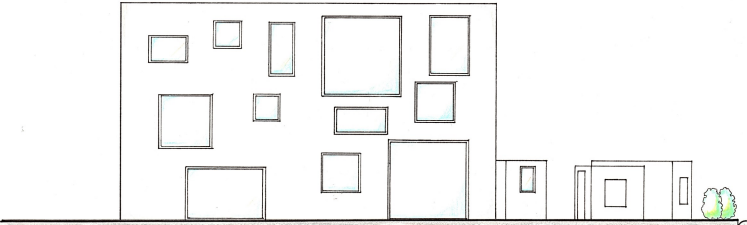
2階平面図 1/100



配置図兼1階平面図 1/100



断面図 1/100



西立面図 1/100











